

黒島天主堂の改修工事終了！

2月24日
から
一般公開



(改修前)

改修前と比べ、レンガの色やアーチの部分がきれいになっていることがわかります。

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つ、佐世保市の「黒島の集落」のシンボルである黒島天主堂。

2019年2月から行っていた工事が終わり、一般公開が再開されました。

工事は、耐震補強のほか、屋根瓦の張替え、しっくい塗りなおしなどの保存修理を行いました。

なお、この改修工事には、皆様からお寄せいただいたご寄附が活用されています。



耐震性を強化するために、鉄筋72本を外壁のレンガに差し込んでいます。



塔と脇の出入口を鉄骨で補強。各所で補強材を目立たせない工夫をしています。

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産基金とは？

構成資産内にある教会堂などは、建築から百年以上の歴史を経て老朽化が進み、大規模な修復を必要としています。

また、構成資産の多くは離島や半島にあり、これらの地域では人口減少や高齢化が進み、修復費用の負担が大きな課題となっています。

このため長崎県では、「長崎のたからもの」を未来に継承していくため、皆様からお寄せいただいたご寄附の受け皿となる基金を創設し、修復費用の助成を行っています。

(写真は、これまでに基金が活用され、修復が行われた教会堂)



修復支援の目標額
3億円

※令和3年3月時点
約1億8,300万円(見込含む)